

## 松澤・円香スプリントカップ優勝

スプリントカップ最終戦 2007年11月10日 栃木県日光市

木村佳司



フィニッシュに飛び込む渡辺円香

スプリントの日本チャンピオン決定戦を！ こう呼びかけて開催された大会で松澤俊行と渡辺円香が優勝を飾った。

2007年11月10日 栃木県日光市  
スプリントカップ最終戦

## 日光のニューテレイン

ジェネシスマッピング社の主催によりインカレロング大会の前日にスプリントカップは開催された。翌日に開催されたインカレロング大会をあわせて日光2日間大会となった。

学生オリエンティアの聖地とも言われる日光地区周辺では、いままで数々のインカレが開催され、地図も何度かリメイクされてきた。

今回はそんな日光のど真ん中に今回ニューテレインとしてお目見えした。

テレインとなった「日光だいや川公園」はここ最近造成された都市公園。

元々は「大谷川（だいやがわ）の氾濫域に広がる平地林である。ここに道路を通し、最近公園として整備したものだ。だいや川治水工事の賜物と言えるだろう。

ME-FA-3.3km	60m		
1 松澤俊行	0:16:23.7	三河 OLC	
2 山口大助	0:16:38.9	ES 関東 C	
3 小泉成行	0:17:07.3	ときわ走林会	
4 高橋善徳	0:17:19.2	みちの会	
5 岩城 徹	0:17:47.1	東北大 OLCOB	
6 藤沼 崇	0:17:52.6	ES 関東 C	

WE-FA-2.6km	40m		
1 渡辺円香	0:15:07.8	ES 関東 C	
2 加納尚子	0:16:11.1	朱雀 OK	
3 朴峠周子	0:16:37.9	ときわ走林会	
4 志村直子	0:16:54.9	渋谷で走る会	
5 千葉光絵	0:17:29.4	上尾 OLC	
6 寺嶋貴美江	0:17:29.6	ES 関東 C	

M21-2.8km	30m		
1 千々岩瞳	0:13:00	東北大学	
2 青山弘毅	0:13:33	筑波大学	
3 太田康博	0:14:04	東京大学	

M20-2.5km	30m		
1 津島直樹	0:13:03	岩手大学	
2 佐藤悠太	0:13:31	東北大学	
3 今将 晃	0:13:33	岩手県立大学	

M35-2.5km	30m		
1 奥村理也	0:12:42	ウルトラC	
2 小林岳人	0:13:28	ES 関東 C	
3 齋藤英之	0:13:53	川越 OLC	

M50-2.3km	30m		
1 海老沢正	0:16:23	東京 OLC	
2 鈴木健夫	0:17:11	京葉 OLC	
3 荒井正敏	0:17:57	多摩 OL	

M18-2.3km	30m		
1 町井瑞希	0:15:59	武相 OLK	
2 湊 洋平	0:16:59	武相 OLK	
3 遠藤豪志	0:17:53	東京 OLC	

W21-2.3km	30m		
1 千葉 妙	0:17:51	筑波大学	
2 田川雅美	0:19:20	京都女子大学	
3 村上冴子	0:20:35	椋山女学園大	

M15-2km	25m		
1 永原 耀	0:12:25	武相 OLK	
2 翁川竜海	0:12:40	武相 OLK	
3 大浦洋平	0:12:52	武相 OLK	

W20-2km	25m		
1 水野綾子	0:14:22	東北大学	
2 本間理紗	0:14:27	東北大学	
3 谷口美貴	0:18:09	大阪外語大	

W35-2km	25m		
1 齋藤まどか	0:15:47	川越 OLC	

W50-2km	25m		
1 山本陽子	0:19:03	無所属	

M12-2km	25m		
1 遠藤豪志	0:31:55	東京 OLC	



Eクラス決勝のスタート（鈴木陽介）スタートゲートを利用した計時システム。フィニッシュでは光計時を使用し、0.1秒単位の計測を行った。世界選手権でも採用されている方式

## 理想は世界レベルの競技会

「世界で通用する選手を育てる練習機会として、世界選手権と同様のテレインを日本で準備することができれば理想的だ。しかしロングやミドル競技ではなかなかこうしたテレインを用意することは難しい。しかしスプリントであれば世界選手権にひけを取らない競技環境を準備することはできる。」

「ロングとリレーの全日本大会があるのだから、スプリント種目の日本一を決める種目があってもいいはずだ。日本が世界に一番近い位置にいるのはスプリント種目なのだから。」



WE3位の朴峠周子 紅葉の日光を走る。整備された公園の森は走り易い。





ME6位の藤沼崇（ES関東C）  
スピード勝負となったスプリント決勝。余  
分な装備はそぎ落とし速さだけを追求した  
ウェア

こうした理念のもと、ジェネシス社主催のスプリントカップが行われた。学生は翌日に控えたインカレロングが目標大会となるが、社会人スプリンターにとってこの秋の目標となるイベントを目指し開催された。

予選・決勝方式の本大会は予想通り秒を争う競い合いになった。学生は予想通りにインカレロングの前日のトレーニングイベントとして参加してくれた。

### 厳しい現実

だが首都・東京を遠く離れての開催は参加者集めが厳しい。インカレとタイアップしても、地図作成にかかった経費を回収するのがやっと。

また運営面でもインカレ運営役員を投入して乗り切った感があるものの、翌日のインカレ運営が控える中で、スプリントカップの運営が手薄であった事は否定できない。

公園を利用するという点でも競技的な制約をクリアしながらコース設定は行った。栃木県の県立公園を利用させ

ていただいている以上、公園管理者からのアドバイスは遵守した。

大会が行われた日はあいにくの雨となった。学生をはじめ多くの参加者が屋根のあるパーゴラに入ってしまったこともあり、決勝の会場の印象はずいぶん寂しいものとなった。アウトドアイベントだけに仕方ないところだ。  
(木村佳司)



パーゴラ近くにある最終コントロールを通過する黒田  
公園には多数の参加者がいたが、多くは雨天のため会場から離れた屋根のある場所（パーゴラ）に移動していた。



スプリントカップ最終戦。トレインとなった日光だいや川公園は、平坦で走りやすいトレイン。